
言靈の幸《さき》はう国

アレグロ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
言靈の幸はう国

【著者名】

アレグロ
N1870S

【あらすじ】

日本は古くから言靈の幸はう国と呼ばれている。
言葉の力が幸福をもたらす國
言葉に不思議な靈力が宿る
我々の祖先は、その力を信じ、言の葉をたいせつにしてきた

日々の暮らしの中の、悲しいこと、切ないこと、苦しいこと、呑み込めずに喉の奥の方でチクチク刺さっていた棘、言葉にすると落ちてゆく。そうやって少しづつ消化していくのだね。

明日はまた少しだけ前を向ける気がする

優しい言葉で幸せを呼ばづ

痛みを言の葉に託し、明日を信じじよつ

逝ってしまった者へ

いつもいつも嫌われるのを恐れ

最後の言葉 聞く前に逃げ出し

いつまでもいつまでも忘れられずにもがく

嫌われるのが怖くて

感情を包み隠し

関わることすら恐れ

気づけば大切なものをなくしてゐる

いつからこんなに憶病になつた

いつからこんなに情けなくなつた

もじあの時 無理にでもあなたの傍にいたら

この未来はもっと違っていたかも知れない

ホントは ね

わひとわひと 色んなこと 話したかったのに

やよなりも 言えなかつた

ありがとひ やく言えなかつた

衝動

何か書きたい

心の中のモヤモヤをすべて
でも何を書けばいいのか・・・

分らないまま手を動かす

何か創りだしたい

その思いが

何かで自分を表したい
その願いが

私の手を動かす 次 次 つぎ つぎ・・・

果てしなく動かす

(動かさずにはいられないのだ)

でも何を書きたいのか

何を創りたいのか

何を描きたいのか・・・

分らない

分らないまま手を動かす

それは自己の存在を確かめる行為

大衆といつ混沌の奥底に

消え入りそうな自己を繋ぎ止めるか細い糸ぐす

湧き出る衝動

それだけが確かな動機

非力な者のさやかな願い

正しいと信じることを
正しいと言える 勇気がほしい

正しいと信じる物を
見つけ出せる 強さがほしい

抗いきれない

巨大な力に呑まれ

感情はマヒし

何が大切かさえ分からなくなつて
そして嘆くのだ

己の不運を

弱さを

すべて人のせいにして

巨大な力が常に正しいわけではないのに
そんなこと分つていてるのに

巨大な力にすがり

それで安全だと信じ込む

いや知つていて知らぬふりをするのか
いつか すがつていたものに
食い殺されるとも知らずに

やがて来るその未来に蓋をして

正しいこと信じることを

正しいと言える 勇気がほしい

正しいと信じる物を

見つけ出せる 強さがほしい

温もり

人ごみの中一日歩き回り
沢山の人々にぶつかり ぶつかられ
フラフラになつた日の岐路

バスの中

老人が一人乗車してくる

杖を突き

ぜんまい仕掛けのオモチャのように
よたよたと歩く

席はほぼ埋まり

二、三人が立つ車内

誰もそれを気に留めず

誰一人会話をする者もない

ただ静かに時は流れれる

老人が隣に座つた

肩が触れる

温かい

瞬間 心が揺れた

あまりに多くの

そう・・・

ただ目の前を通り過ぎるモノに見慣れて

その一つ一つが生きていることを忘れかけていた

命が温かことすら忘れかけていた

温もり（後書き）

人間同士の言葉のない細やかな触れ合いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1870s/>

言霊の幸《さき》はう国

2011年10月8日23時27分発行